

「若者の『働くこと』を応援しています！」 NPO法人アンガージュマン・よこすか



小柳 良代表

若者の働く意欲を喚起しつつ、やる気のある若者の職業的自立を促進し、若年失業者等の増加傾向を転換させるため、さまざまな施策を実施している最前線の施設等を1月号よりご紹介しています。

第9回目の今回は「NPO法人アンガージュマン・よこすか」を訪問し、小柳 良代表に就労支援を中心にお話を伺いました。

アンガージュマン・よこすかの概要を教えてください。

2004年1月にNPO法人の認可を受け、4月にフリースペースを開設しました。

それ以前もボランティアとしてひきこもりや不登校の子どもや親の相談にのったり、勉強をみたりと活動していましたが、限界を感じ法人格をとって本格的に活動を始めました。NPO法人になると仕事として常時取り組み、経営も考えなければなりません、その分社会的認知度も上がり、公に出ていく機会も増えました。責任が重くなりましたね。

今は常時使えるスペースとして、はるかぜ書店の2階を事務所、向かいのビルの1階をフリースペースとして使用しています。

NPO法人アンガージュマン・よこすかは大きく分けて3つの柱で活動しています。一つはフリースペース「あばうと」。ここを不登校やひきこもりで家の中で悩んでいる若者、家族や社会の狭間で自信を失っている若い人たちに自由に使ってもらえる時間と場所を提供しています。二つ目はここを活用しての学習支援、就労支援。不登校の子どもたちや、学校へは通っているけれど授業の理解を深められずに悩んでいる子どもたちに、学ぶ喜びとなにより自信をつけるように応援しています。現在、障害の有無にかかわらず、小学生から20代後半の約50人の子どもや若者の補習や資格取得を大学生や教師経験者約20人がマンツーマンでお手伝いしています。三つ目は相談事業。親を中心にカウンセリングなど相談にのっています。

この3本柱により若者の次の目標である社会的自立、就労支援にまでつなげていきたいと考えています。



はるかぜ書店の正面

アンガージュマン・よこすかの特徴はどのようなことでしょうか。

大きな特徴としては商店街とのタイアップでしょうか。

ここは上町商盛會商店街の中にあり、空き店舗を活用したもので、フリースペースは以前はコンビニ、はるかぜ書店は電器屋でした。若者の自立は抽象的ではなく、非常に具体的に、地域、地元の中で、そこに根ざして実現していくものだという思いと、地名は上町なのですが下町的な街の雰囲気からここを拠点に決め、商店街の一員として、あるいは活性化に貢献していこうという意気込みで日々の活動や事業を行っています。

地域に開かれているという点が大きな特徴だと思います。

孫の手やお届け便といった事業も地域とのつながりを深めながら行っています。ここは坂の多いところで、また商店街も高齢化が進んでいます。孫の手事業は犬

の散歩、引越、部屋の大掃除、ごみ出し、街灯の電球の交換など、高齢になるとなかなか手の行き届かない部分を若い力が請け負うことで喜ばれています。商店街の青年部といったところでしょうか。やはりギブアンドテイクがなければ地元へ根付くことができず、よそ者のままです。今年7月には300もの灯笼を商店街のアーケードに並べ「灯笼夜市」を開催しました。

「はるかぜ書店」を開店したいきさつについて教えてください。

「はるかぜ書店」は、福祉や医療関係をメインに町のニーズにあった本を扱う書店をこの商店街の中で開きたいとの思いと、若者の就労支援の目的から今年5月に開店しました。現在は店長以下20歳代から40歳代の男女5人がローテーションを組んで運営しています。独立採算で、本の仕入れ、販売から店内のレイアウト、ブックカバーのデザイン、経理まですべて自分たちで対応することで、任されることから自信とやる気生まれてくるのです。病院への通り道にあり、午後7時まで開いていて、配達もしていますので、まだ半年ですが地元の本屋として重宝されています。本はどこで買っても値段は同じですから、サービスがポイントになる商売で、そこが腕のみせどころ。経営の初歩や商売のしつこさを勉強するのにも向いているのです。

商店街にアンガージュマン・よこすかやはるかぜ書店とともに若い人たちが入ることで、行事などの企画が広がり、感謝されることは、私たちにとって大変嬉しいことだと思っています。

代表からアンガージュマン・よこすかに託す思いをお聞かせください。

子どもたちを含めた若い人たちは皆、生きる力を持っているのですが、自己否定感が強い人たちも少なからずいて、そういう人たちに、ここをきっかけに生きていく場所を見つけて欲しいと思っています。就業というと、なにか雇用されることばかりを考えがちで、もちろんここでも希望により、履歴書の書き方や面接の受け方も指導しますが、生きる可能性というものはもっ

と大きく、いろいろあるのではないのでしょうか。例えば後継者のいない個人商店を継いでみる、起業してみる、受け身ではなく自分でやってみるという選択肢もあるのです。多様に自分らしく地域社会で生きていく可能性もあることがわかることで、狭くなっている視野を広げて欲しいと思っています。



フリースペース「あぼうと」の入口

アンガージュマン・よこすかの今後の取り組みについてどのようにお考えですか。

コミュニティービジネスのひとつのかたちとして、かながわボランティア活動推進基金21の助成や、中小企業診断士の方のアドバイスを受けながら新しい企画を模索しています。商店街の一員として、活性化にも一役買えるよう「上町ブランド」を発信していきたいと思っています。可能性は大きく、多様に、でも足元のできることを地域の企業や商店等のご協力をいただきながら、進めていきたいと思っています。

若者へのメッセージをお願いいたします。

親も自分自身も気づいていないかもしれませんが、皆生きる力を持っていることをわかって欲しい。生きていく場所、方向は多様にあり、大丈夫だと自分に対して肯定感を持ち、希望を持っていただきたいと思っています。

NPO法人アンガージュマン・よこすか

○住 所. 〒238-0071 横須賀市上町2-4
(京急横須賀中央駅下車徒歩10分)

○TEL / FAX. 046-801-7881

○E-mail. engagement@jcom.home.ne.jp

○URL. <http://engagement.angelicsmile.com/index.html>